

事故報告書



1985年度ゴールデンウィーク合宿
信州大学山岳会

項目

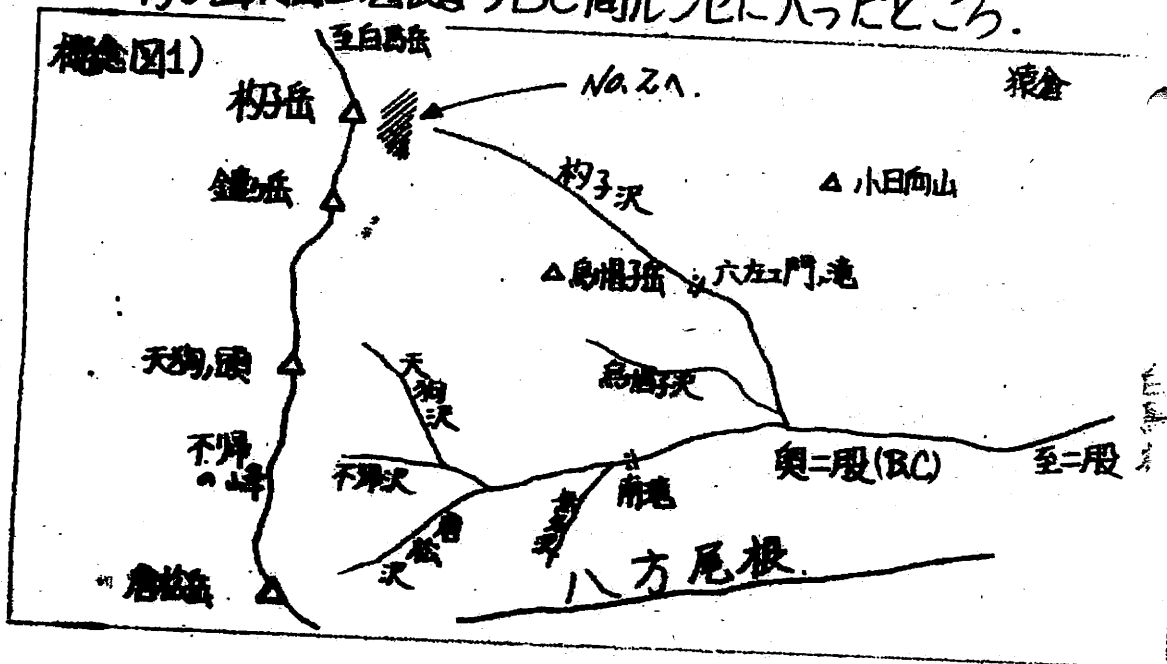
- I 場所 (概念図)
- II 事故に至るまでの行動及び事故状況
- III 事故原因
- IV 教訓、まとめ

事故者 C.12号 (杓子岳B尾根隊) {

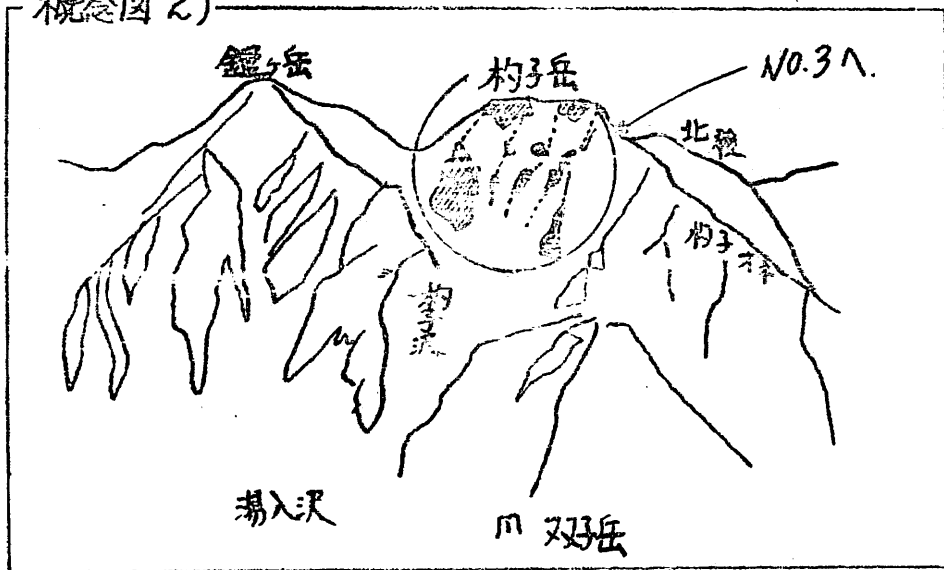
- L 水谷 寿宏 (離4年)
- 三野 和哉 (" 3年)
- 安田 至宏 (" 2年)

I 場所

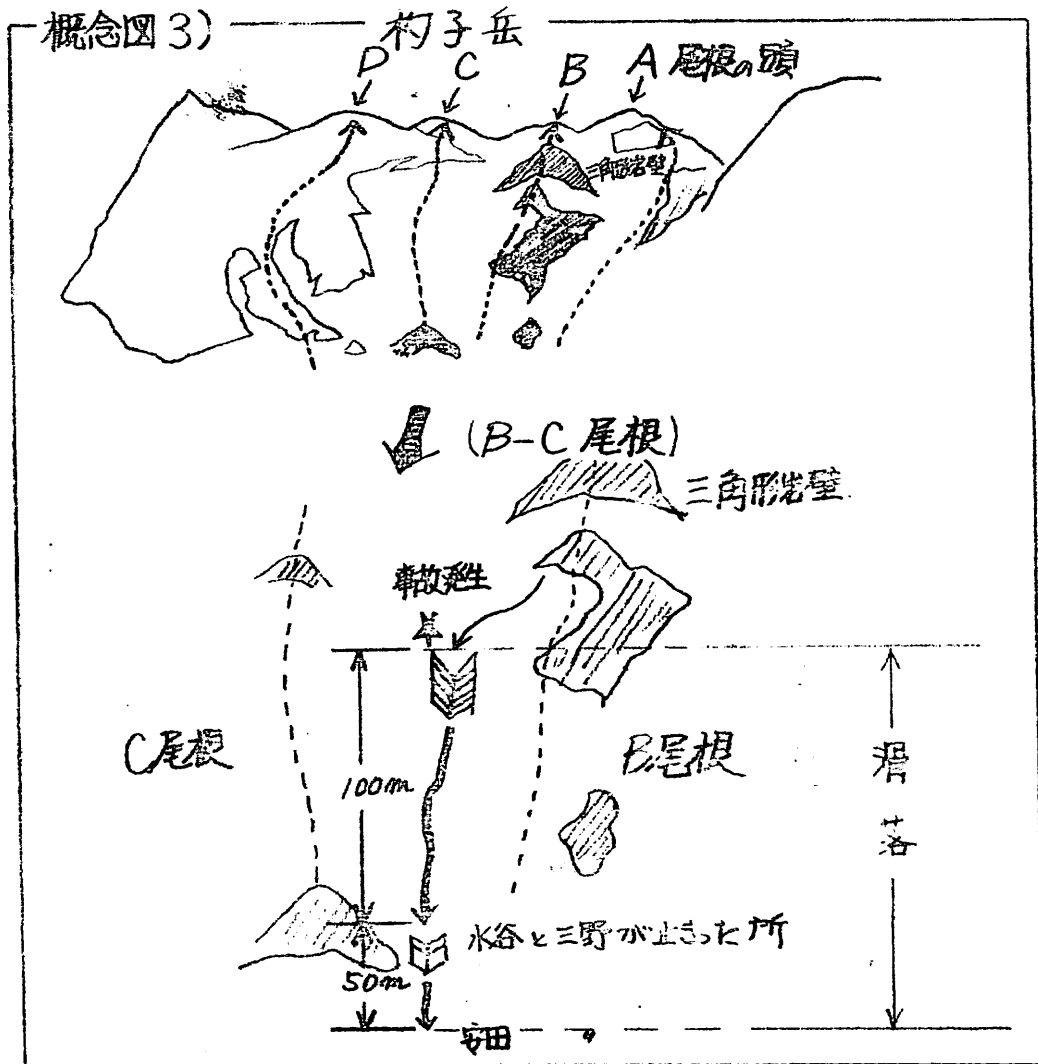
杓子岳東面B尾根よりBC間ルンゼに入ったところ。



概念図 2)



概念図 3)



II 事故に至るまでの行動及び事故状況

5月1日 4パーティーに分かれて杓子岳東面尾根ルート登攀

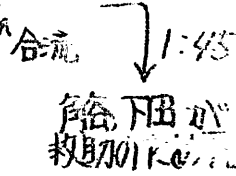
Aパーティー	角谷, 豊田, 瀬川	} A尾根	} 取付1P前まで 同一行動.
Bパーティー	下田, 小野, 中村(ゆかり)		
Cパーティー	水谷, 三野, 守田		
Dパーティー	森, 新井, 藤田		
			} B尾根
			} D尾根

(1) 各Pの行動記録

BC 5:00 ① ~ 六左門滝 5:55 ② ~ 8:00 ① P毎に分かれる

A, B P 取付 8:45 ~ 山頂 10:55 ~ 軌道連絡 1:30 ~

D P 取付 9:00 ~~~~~ 山頂 1:35 ~



筒下で救助の開始

(2) 事故状況

12:00 Bパーティーは、交信でEscapeすることを伝える 場所は、三角形の顕著な岩壁の手前の岩峰。ここで下降路をBC間ルンゼトラバース後C尾根沿いにする。

12:25 BC間ルンゼへの傾斜は、始めの15mは、30°で懸垂する。その後傾斜は、20°となり水谷, 三野, 守田の順でグリセードで下降。(15m + 20m + 20m の3回に分けて) 最後の20mのグリセードでルンゼに着くが、そこに雪崩道が出ており深みの5mくらい手前で急に堅くなり横滑りで止まらず窪地の底で停止、氷谷。その後水谷は、雪崩道のC尾根側で待つ

12:45 三野が、堅い雪の手前で止まり、その場所まで守田を降ろさせるが、横滑りの体制に入らず、三野につっ込み、そのまゝ2人が滑落。2人を確認し、水谷が止めにいったが、巻き込まれ、守田, 三野, 水谷の順でBC間ルンゼを滑落。

12:47. BC間ルンゼは. 2ヶ所岩混じりの所が現われる.
三野. 水谷は. 100m 滑落し. C尾根末端の岩峰の手
前のところで停止.

安田は. 150m BC間ルンゼを末端まで滑落し. かな
り傾斜の落ちた辺りでピッケル. ストアで停止.

(水谷の停止した所からは. 安田を目で確認不可
コールを交わし安田の不事を確かめ雪崩道をはす
して安田を安全な所まで下らせ待機及び外傷の
確認をさせる)

13:10 水谷が. 停止場所(ルンゼ内)よりC尾根へ5mの草付きの
岩を登り上から確保して三野をそこまで登らせる.

13:30 (岩峰の上から安田を目認. 外傷様子を聞く)
水谷. 三野は. 次の交信時間(13:30)までアイゼンを
巻いて待つ. 13:30の交信でAパーティーに事故発生を
知らせる.

14:05 C尾根をCD間ルンゼ寄りに下降して安田と合流.

14:15 救助隊(角谷, 下田) と杓子尾根を下り切った辺りで
合流

(B尾根隊は. 医療薬がなかったため救助隊と合流後)
応急処置を行う.)

14:45 (外傷の状況は. 軽い裂傷. 打撲. 程度で自力で歩行)
可能
「三野. 安田. 「水谷. 下田」のパーティーで 六左衛門の滝まで
本隊より先に下山を開始する.

15:30 六左衛門の滝で本隊に追いつかれる. 滝下部の急は斜
面は. 固定ギヤを張ってもらいつかま. て下降.

16:20. 南股(B.C.) 到着.

17:10 水谷が右膝の裂傷がひどいため「下田+水谷」で下山を開
始する.

Ⅲ 事故原因

直接的原因は、守田(陣) グリセード時に於ける制動法の失敗ですが、ここでは、「なぜそうなったか？」という間接的原因を探っていく。

- (1) 下降に対する認識の甘さ
- (2) 下級生の状態把握 及び し会のあり方

(1) 下降に対する認識の甘さ

- α) 時間的.....
 - 集合時間 (杓子山頂 2:00) の割には、11:40 のエスケープ決定は遅すぎる。従って下降時に時間的余裕に欠けた。
- β) 下降路の選択.....
 - 登攀中に下降路の捜索をしなかったため、時間的ながらみもあるが、(ルンゼをトラバース～C尾根下降「そこから一番下降しやすいルート」) を選択してしまった。
「原則は、往路下山」
 - エスケープ前の交信で下降路をどこに取るのが連絡しなかった。
- γ) 下降方法.....
 - この場合、ルンゼ中の状態がよくわからないためグリセードを使用することは、適切ではない。又、時間的にも雪崩を避けるため
 - 傾斜は小さいが、危険箇所のためアンザイルンすべきだった。

(2) 下級生の状態把握 及び し会のあり方

常に一年生に対して話しかけ、個々の得手、不得手、グリセードの経験不足、岩登りトレーニングの不足など毎日のし会を通してリーダー全員が完全把握する必要がある。

Ⅳ 教訓、まとめ

S60年度は、夏合宿、冬合宿と2度の事故が発生してしまったため、GW合宿前に新リーダーの下で「今後、引き続き事故を起さぬよう方針決定した矢先の事故だけに大いに反省させられます。山での事故というものは、天候を除けば殆んど判断ミスであり、そのところでリーダーの手腕が試されるわけです。今回の事故は、真にそのリーダーの判断ミスというものが大きなウェイトを占めています。従って今後ますますリーダー会を充実させ、各々の状況把握に努める必要があります。

もう一つは、個々のトレーニング不足というものが大きく拘わってきていると感じられます。「重いザックを背負い歩行がやんど！」という状態では、事故につながってもしかたありません。合宿というものは、日頃の疲れをいやすために行くハイキング登山とは違います。もっともっと各人が自分を高め、ベストコンディションで山にアタックしようではないか。

(本当に今回は、会員並みにOB諸兄に多大な御迷惑)
をまかけ致したことを心より反省します。

山岳会4年 水谷 寿宏

付録 1) 外傷の状況

水谷： 右膝の裂傷（7針縫合）
脇の打撲

三野 : 右前腕に軽い裂傷
右膝の打撲

守田 : 右足大腿部の打撲
脛の打撲
右手、中指、薬指のつめが割れかける

(水谷は、医師に治療を受けるため外に下山)
(三野、守田は、引き続いて合宿に参加)

2) 水谷の治療費

通院6回	3,815 円	
タクシー代	1,260 円	(二股 ~ 白馬駅)
"	1,280 円	(松本駅 ~ 藤森病院)

